

生研ニュース

☆航空写真による地じり

調査に関するシンポジウム☆

最近航空写真を利用して、種々の調査を行なう方法が開発され、有効の手段として広く応用されようとしている。航空写真を使つて行なう地じり調査もその一つで、今年 4 月本研究丸安教授を中心として航空写真を利用して地じり調査を行なう研究グループができ、その基礎研究および実地応用研究を国鉄、土讃線を中心とした地域について行なってきた。

日本写真測量学会では最近の地じり予知が重要な社会問題として、取り上げられているおりから、各方面の地じり関係者の方々に集まっていたいただき、航空写真による地じり調査の諸問題を討議する集まりを当研究所中央会議室で昭和 38 年 12 月 7 日(土)午後 1 時半より開催した。

会議は司会者による討論形式で進められ、会の初めに下記の方法による講演をおこない討論を進める問題点を提供した。

- (1) 航空写真による地じり調査の研究組織を作るにあたって 丸安隆和氏(5分)
- (2) 航空写真による地じり調査の実例 地じり研究グループ 代表 武田裕幸氏(20分)
- (3) 航空写真による地じりの統計的処理の実例 尾崎幸男氏(20分) 盛 憲一氏
- (4) 地じり研究における航空写真地質の利用 安藤 武氏(15分)
- (5) 航空写真による判読の意義と限界 西尾元充氏(20分)
- (6) 日本における地じりの現状と対策 谷口敏雄氏(20分)
- (7) " " 小出 博氏(20分)

討論に入る前に 7 人の講演者の内容のまとめと、航空写真による地じり調査の分類とその問題点について東京都立大中野尊正氏の講演があり討論に入った。

参会者は約 100 人で種々の角度より航空写真の地じり調査への利用についての質問と検討が熱心に行なわれ、有効裡に終了散会した。

☆講 演☆

◇研究員 古川浩「ブルドン管圧力計の問題点」日本機械学会全国大会 広島において(1963.10.9)

◇研究員 古川浩「爆発成形に関する研究(第 6 報)」精機学会秋季大会 東京大学において(1963.10.16)

◇教授 山辺武郎・助手 妹尾学・技官 高井信治・微化研 堀江秀夫・応微研教授 梅沢兵夫「イオン交換膜における塩基性抗生物質の透過性」第 18 回日本薬学大会 東京薬科大学において(1963.11.2)

◇教授 山辺武郎・助手 妹尾学「イオン交換樹脂粉末サスペンションの力学的特性」日本化学会第 16 回コロイド化学討論会 大阪商工会議所において

(1963.11.8)

◇助教授 河添邦太郎「多孔性物質の細孔分布」化学工学協会第 2 回総合シンポジウム 京都都会館において(1963.11.8)

◇講師 明石和夫・三菱金属鉱業 K K 研究所 細田正・教授 江上一郎「マグネシウムの特殊電解製錬法に関する研究 (I. 酸化マグネシウム特殊陽極による電解 II. 酸化チタンまたはチタンスラッグ特殊陽極による電解)」日本鉱業会昭和 38 年度秋季大会 九州工業大学において(1963.11.10)

◇教授 尾上守夫「圧電振動子と結合振動理論」昭和 38 年度電気通信学会 全国大会 東京電気大学において(1963.11.16~18)

◇教授 斎藤成文・大学院学生 藤井陽一・日本電気 K K 藤井忠郎・同 安藤隆男・同 佐分利昭夫「光電面によるレーザ光の検波(第 2 報) — 光電陰極を用いた進行波管 —」同 上

◇教授 斎藤成文・助手 亀尾要道・大学院学生 藤井陽一・同 木村達也・技術員 西本博信「光検波パラメトリック増幅器の解析」同 上

◇大学院学生 藤井陽一「光電子放出による雑音の測定(第 2 報)」同 上

◇教授 尾上守夫・技術員 十文字弘道「水晶発振子の副振動のシミュレーション」同 上

◇技官 横山茂士・技官 鈴木康夫・教授 野村民也「デジタル割算回路」同 上

◇教授 後藤以紀・東京工業大学 森末道忠「エサキダイオードの動作特性による分布定数回路の発振条件の算定理論」同 上

◇教授 後藤以紀・電気試験所 駒宮安男・同 田島裕昭・東京工業大学 森末道忠「エサキダイオード接続の分布定数回路における非線形振動」同 上

◇助教授 河添邦太郎「吸着操作の現状と将来」最近の吸着技術講習会 大阪市電子会館において(1963.11.18)

◇助教授 河村達雄・助手 田代文之助・技術員 難波克明「パルス式送電線接地抵抗測定装置」昭和 38 年電気学会東京支部大会 工学院大学において(1963.11.23~25)

◇教授 藤高周平・助教授 河村達雄・技官 北条準一「開閉サージ閃絡電圧の湿度特性」同 上

☆海外渡航☆

◇第 4 部 菊池真一教授は、既報 9 月 23 日~28 日イタリー・トリノ市で開催された国際科学写真シンポジウムと 10 月 14 日~19 日ドイツ・ケルン市で開催された第 1 回国際 Reprography 会議に、野崎弘教授・坂田俊文技官とともに出席して報告を行なった。国際科学写真会議は、次回は 1967 年日本で開催することになった。Reprography とは新語であって複製 Reproduction に関する作画的技術 (Photography, Lithography を含む)

という意味である。

◇第1部 糸川英夫教授はインドネシア・ジャカルタ市において宇宙工学に関する講演を行なうため、38年11月27日出発し、12月2日帰国した。

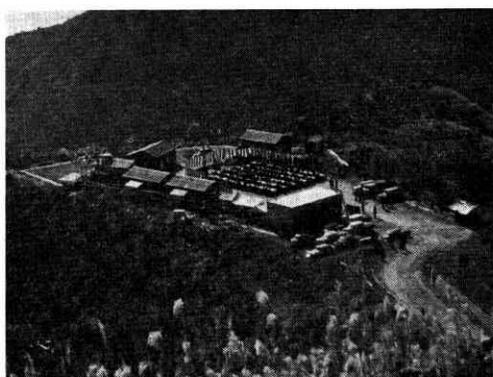
☆人事異動☆

◇第3部 黒川兼行助教授は米国ベル電話研究所において「低雑音増幅の研究」に従事していたが、同所において研究を続行するため、このたび本研究所を退職した。(1963.11.5)

☆東京大学鹿児島宇宙空間観測所の開所式☆

昭和38年12月9日、11時より東京大学鹿児島宇宙空間観測所の開所式が、同観測所敷地内で、東京大学総長初め約230余名の関係者列席の上行なわれた。同観測所は37年2月2日起工式を行ない、37年度工事で約270坪の建物と、発射管制装置、18mφテレメータ、アンテナ・ラムダロケット・ランチャ等の設備が完成したもので、式には、総長式辞を初め生産技術研究所長の研究経過報告等があり、来賓からは、日本学術会議会長、鹿児島県知事、内之浦町長等の祝辞が述べられ、式後、観測所施設の見学と祝宴があった。施設見学は、ラムダ2型2号機の飛しょう前日であって、ランチングされたロケットは見られなかったが、恒温中のものを見学し、コントロール・センタ、テレメータ・センタは、幹部教官・研究者の説明でくまなく見学した。設備の内、銀色の大型テレメータ・アンテナは、異彩を放って参観者の印象を深

めたようである。また、コントロール・センタやテレメータセンタの内部設備は、目下拡充途上にあるもので、室内にぎっしり埋められた装置は、ロケットの規模の向上を思わせるものが十分あった。



開所式全景

この観測所の建物は、38年度に追加工事が進められ、これが完成すれば、ラムダロケット飛しょう場として完備する。また、39年度には、ミュー型ロケットのための団地と設備が拡張されようとしている。

開所式翌日の12月10日は、ラムダ・ロケットの飛しょうを予定し、多数来賓の来賓も見学を期待されたが、天候悪く、11日に延期されたため、大多数の来賓は、難産された。

生研ニュース

筆 者 紹 介

- ◇藤高 周平 所長 教授 工博 専攻 電力工学
- ◇小瀬 輝次 助教授 工博 専攻 応用光学
- ◇村松貞次郎 助教授 工博 専攻 生産技術史
- ◇小口 泰平 研究生 専攻 自動車工学・内燃機関学
- ◇音川 惇子 村松研究室事務員
- ◇永井 芳男 教授 工博 専攻 有機工業化学II
- ◇田宮 真 教授 工博 専攻 船体運動学
- ◇松尾 昌季 大学院学生 専攻 染料化学
- ◇川井 忠彦 助教授 工博 専攻 溶接工学・熱構造力学
- ◇綾部 好雄 元研究補助員
- ◇鳥飼 安生 助教授 理博 専攻 音響学
- ◇松田 達史 研究補助員

出版委員	委員 大島康次郎	委員 西川 精一	専門委員 星野 昌一
出版委員長 星 埜 和	川井 忠彦	野崎 弘	菊池 真一
委員 *小瀬 輝次	山口 楠雄	小林 一輔	森 大吉郎
玉木 章夫	野村 民也	勝田 高司	編集室 下村潤二郎
*水町 長生	武藤 義一		水野 清明

*印当番委員

第16巻 第1号

生 産 研 究

(本誌は生産技術研究所の研究紹介誌として、毎月1回発行する)

1964年1月1日発行

頒価 100円

編集者 星 埜 和
発行者 藤 高 周 平

印刷所 三美印刷株式会社
東京都荒川区日暮里町8-93

発行所 東京大学生産技術研究所
東京都港区麻布新道土町10
電話 (402) 6231 (代表)
千葉実験場 千葉市弥生町1
電話 千葉 (2) 0261 (代表)